

【教育目標】

【知】自ら学び、考え、進んで行動する人

【徳】互いを尊重し、協力する人

【体】心身ともにたくましく健康な人

杉並区立中瀬中学校

下井草4-3-29 TEL 3399-2196

はなむけの言葉

校長 香西雅斗

科学と自然の散歩みちに桜が咲き始めた今日、三年生は中瀬中学校を卒業します。三年生の皆さんは七十周年という記念の年に入学してきました。先輩たちの調査を受け継ぎ、科学と自然の散歩みちに七十周年記念の樹名板を設置したのも君たちでした。

入学当初は体も小さく幼さも残り、クラスもまとまらず、人間関係もギクシャクすることが続いていました。そんな君たちが大きく成長したのは、三年生として活躍を始めようとした矢先の、コロナ禍でした。先が全くわからない、世界が揺れ動き、学校も、教室すら様変わりしました。

君たちは、ステイホームを工夫し、学校が再開してからは、部活や行事を気にしながらも、分散教室での自習を頑張りました。その中で君たちは「世界は、自分の思い通りにならない事の方が多い。」「願いは叶うとは限らない」ことを噛み締めていたのだと思います。

「どうにもならない事に不満を言うのでなく、この状況でできること、今だからこそできることを見つけよう」と考えた君たちだからこそ、あの音楽発表会や体育大会ができたのだと思います。体育大会の、新しい種目、新しい方法、そして個人種目のフリー参加などの新しい形式は、これからの中瀬のスタンダードとなることでしょう。



<1・2年生よりの合格祈願メッセージ>

君たちは、コロナ禍でも立ち止まらず、過去を振り返らず、チャレンジし続けました。君たちは中瀬中の伝統を引き継ぎ、未来を切り拓くパイオニアです。皆さんの切り拓いた原野に、後輩たちが道を作っていくのを楽しみにしてください。

皆さんは今日、中瀬中学校を、巣立っていきます。広い世界に羽ばたいていく君たちに、言葉を贈ります。

『胸を張って生きろ。己の弱さや不甲斐なさに、どれだけ打ちのめされようと、心を燃やし、歯を喰いしぱり、前を向け。君が足を止めてうずくまっても、時間の流れは止まってくれない 共に寄り添って悲しんではくれない。 (今年度、話題になった鬼滅の刃の登場人物、煉獄杏寿郎の言葉) 』



<3年生教室への、1・2年生よりの黒板アートのプレゼント

3年生一人一人に、メッセージカードも贈りました>

では卒業生の諸君。中瀬中学校の卒業生として巣立ち、胸を張り、もっともっと成長してください。そして、君たちで力を合わせて、世界の未来を切り拓き、今度は君たちが君たちに続く者たちを支える柱となってください。私は信じています。君たちを信る。

卒業生の俳句紹介

<コロナ禍>

春休み ステイホームだ 映画見る
(倉石)
一週間 宿題たまる 自粛期間
(結)
休校で 思い返すは 友のこと
(竹内)
コロナ禍で 家で聴き入る 蝉の声
(秋澄)
休み明け 日光感じる 登校日
(佑真)

<小千谷・鎌倉>

静寂の 夜にきらめくは 蛍の光
(真瑠)
鎌倉や 秋めく空の 光る海
(紅露)

<tetugaku>

日々想う 学歴社会に もの申す
(杉本)
経験は 自分の未来の 助け舟
(石出)
人はみな 立ち上がるたび 挫折
する(岡田)

<スキー教室>

直滑降 いつのまにか 人雪崩(明寿)
友を追い 必死に滑った 雪の中(眞生)
思い出で 腹を抱えた スキー後に(わこう)
スキー場 僕のまわりは 雪融けだ(鈴木)
雪の中 少しの恐怖と ワクワクと(咲菜)
大自然 雪とたわむれ 真っ白け(柴田)

<勉強・受験>

鉢巻を 皆巻きしめた うすら寒(大東)
ペン止めて 東風にゆるる つぼみかな(さら)
筆を持ち グラフと向き合う 聖なる夜(ゆうせ)
冬休み 勉強一筋 受験生(黒沢)
勉強で 追いつくためには 努力次第(沙羅)
筆一本 込める魂 冬の夜(大和)
夏の日 暑さも忘れ ペン走る(こうこ)
戦場に 赴く僕は キリギリス(木内)

<仲間・友情>

繋いでけ 仲間と過ごした 青い夏(小林)
朝顔の 照る葉にかかる 友の声(田中)
帰り道 友と歩いて 見た景色(城石)
コートかけ 凍る心を 溶かす友(庄司)

<部活動>

お抹茶と お菓子食べて 幸せだ(るりこ)
ボール追い 仲間へ繋げ この想い(中山)
時の空 跳ぶ楽しさや 翺雲(片山)
なりびびく 顧問の怒号 蝉の声(晴菜)
炎天下 ファイトの音が 背中押す(未梨)
一球に 思いを込めた 夏の空(玲央)
部活後の 風で汗引く 帰り道(清水)
息を吸い 呪文と記号を 音にする(阪)
汗なびく 目で追うボールは 籠の中(紗和)
秋の日の 青空の下 三連覇(瑠杏)

<音楽発表会>

音発で 最後の歌に おもいのせ(田中)
響かせよう 僕らの証 大空へ(朔矢)
またねから 桜流れて 思い出に(里彩)
声合わせ あの喜びを もう一度(しおん)
音発で 全力尽くすも 曇り空(齋藤)

<体育大会>

げえげえと 渡したバトンの 行方追う(小森)
時世柄 人に感謝 体育祭(藤田)

<?、!>

友達と 思い出いっぱい 京都奈良(温人)
入学式 忘れられない 一目惚れ(れい)

18日の予行での在校生よりの『送る言葉』を紹介します。

送る言葉

春の陽気の中で、寂しさや嬉しさが入り混じった、不思議な気分が襲われています。いよいよ中学校からそれぞれの道へと踏み出していく、先輩方の気持ちは、どのようなものでしょうか。

三年生の皆様、御卒業おめでとうございませぬ。私達はこの二年間、先輩方から様々な学びを得てきました。特に今年度は休校から始まり、思い描いていた一年間とは全然違う学校生活へのショックと不安の中、最後まで中瀬中学校の三年生として、強い背中を見せ続けてくださった姿には、本当に胸を打たれました。

例えば音楽発表会では、例年より少ない練習時間を感じさせぬ、圧巻の舞台でした。合唱にかける先輩方の思いが、歌声や表情から伝わってきました。きっと一番辛かったのは三年生です。それでも、一番輝いたのは三年生でした。

体育大会では、先輩方の豊かな表情が印象に残っています。杉並舞祭りを踊る本気笑顔。声を枯らして仲間を応援する顔。共に喜びや悔しさをかみしめる表情。全て終わった後の晴れ晴れとした表情からは、やりきった誇らしさが伝わりました。

特に私は、ゴールテープを担当した時に見た顔が忘れられません。全力を出して駆け込んでくる三年生をみて『大きい』という衝撃を受けました。それだけの迫力がありました。どの顔も、本気でぶつかったからこそ生まれたものだと思います。

今年度は、様々な行事が中止されていく中、三年生の修学旅行がなくなつたと聞いた時は、当事者でない私ですら、とてもやるせない気持ちになりました。しかし、三年生の教室に貼ってあった通信で『そっだ東京都にいよう』というスローガンでレクを企画したことを知り、とても驚きました。

私の想像以上に先輩方はたくましく、自分たちの力で現状に負けずに、むしろ楽しんでいました。先輩方の思いは私達にしっかりと伝わっています。そしてその姿に憧れた私達がしっかりと思いを繋ぎ、中瀬中学校の校風が受け継がれていくのでしよう。私はそこにたずさわる一員になれることを、とても誇りに思います。

今、外にかわいらしい梅の花が咲いています。桜の花が咲く頃には、中瀬中に新しい仲間を迎えます。そして先輩方はもうここにはいません。それでも私たちの内には、先輩と過ごした時間が刻まれています。どんな状況でも、ただひたむきに進んでいく先輩方の姿を、一コマ一コマ思い出すと胸がいっぱいになります。

これから先輩方は自分の選んだ道を進んで行かれるのでしよう。それぞれの夢を心に秘め、これからの人生を紡いでいかれる先輩方を私たちはずっと応援しています。今まで、本当にありがとうございました。

在校生代表 西山 明里

